

## 新研究分野支援のための新たな仕組みの導入について

### －「時限付き分科細目」の改善に関する検討経過について－

近年、学術研究の細分化が進み、未開のまま残された重要な分野、技術の長足な進歩によって生まれつつある新しい研究分野、また分野横断的な研究から生まれることが期待される新研究分野など、従来の細目では収まりきらない新研究分野を支援すべきだとの意見がある。それらは、しばしば、「未開のまま残された重要な研究分野、技術の長足な進歩によって生まれつつある新しい研究分野、また分野横断的な研究から生まれることが期待される新研究分野など」などと表現され、科研費的にも、従来の細目では収まりきらない研究であると思われる。

現在の科研費制度では、このような新しい研究分野の主張に対しては、主に「時限付き分科細目」で対応しており、「時限付き分科細目」は新しい要求に対応する柔軟性を持っていたということができる。すなわち、「時限付き分科細目」は、まずその設定期間を限り次のようにして対応してきた。

- ① 「既存の細目で対応できない新たな研究分野」であること。
- ② 「既存の細目で対応することは可能であるが、別の体系でまとめた方が、より適切な審査を行うことができる研究分野」であること。
- ③ 「系・分野・分科・細目表」の別表として設定し、基盤研究（C）と同様の扱いとすること（細目の別表に記載）。
- ④ 審査方式は、既存の 2 段審査方式（書面審査と合議審査を別の審査委員が行う方式）を用いる。

しかし、この「時限付き分科細目」対しては、不満や批判が最近多くなったように思われる。その点を以下にまとめる。

- ① 学術研究の動向に柔軟に対応できるが、応募総額 500 万円以下の基盤研究（C）に限定しているため、小規模な研究計画にならざるを得ない。
- ② 既存の分科細目から脱皮して新しい試みに挑戦するためには、基盤研究の重複制限が「時限付き分科細目」には不適である場合が多い。
- ③ 現行の 2 段審査方式（書面審査と合議審査を別の審査委員が行う方式）では、新しい研究に対する十分な審議が困難ではないか。
- ④ これまで、「時限付き分科細目」では、設定期間内に一定数以上の応募件数があれば、「系・分野・分科・細目表」の本表に追加されることとしてきたために、「系・分野・分科・細目表」の細目数が増える方向に働き、研究の細分化を制度的に担保することによって、研究分野の細分化・蝸壺化を招いてきたのではないか。

このような①—④にあげた理由で、冒頭に述べた通り、今提示されている新しい要求は、従来の「時限付き分科細目」の運用では収まりきれない時期に来たのではないかというのが、現時点での検討結果である。

そこで、従来の「時限付き分科細目」の仕組みもそれなりに大きな効用があるため、これを維持しつつ、新しい仕組みで支援する新研究分野類型を創設することが、勃興しつつある新しい研究分野を確保することになるのではないかと思われる。

新しい仕組みとは、次のように構成される。

- ① 審査方式として、第1段審査（書面審査）の審査委員が第2段審査（合議審査）も担当する。
- ② 応募額の規模を拡大し、基盤研究（C）に加え基盤研究（B）も対象とする。
- ③ 重複応募を可能とする。
- ④ この「特定新研究分野支援」（仮称）は、「時限付き分科細目」と並立するカテゴリである。しかし、この新カテゴリは、すでにある程度のまとまりをもった研究者集団が新たな研究分野を切り拓こうとする「新学術領域研究（研究領域提案型）」とは、まず個々の研究者に着目し、集中的に支援する点で異なる。

これらの「特定新研究分野支援」（仮称）は、従来の細目では収まりきれない研究領域であることから、既存の分野の枠を越えた学術研究の動向調査に基づき設定する。従って、応募課題の審査についても、広い視野からより深い議論が行われる必要があり、従来の審査方式ではなく、書面審査を行う審査委員と合議審査を行う審査委員を同一とする審査方式の適用が望ましい。

以上により新カテゴリは、現行の「時限付き分科細目」では対応できない従来の細目では収まりきれない研究に道を開き、グローバルに展開する「知の創造」の世界的競争にも対応できるものとして作り上げていきたい。

#### <具体的方法>

既存の研究種目である「基盤研究」に応募区分を設ける方法、従来の「時限付き分科細目」の中に従来の方法と新たな仕組みを区分して設ける方法や、新しい研究種目を立ち上げる方法などが考えられる。

その際、基盤研究（A）、（B）、（C）（一般）との間には重複応募の制限を設けず、審査方式については、書面審査と合議審査を同一の審査委員が行うこととしたい（従来の「時限付き分科細目」は現行のルールで行う）。

## 「時限付き分科細目」と「特定新研究分野支援」(仮称)の違い

	時限付き分科細目	特定新研究分野支援(仮称)
目的・対象	学術研究の動向に柔軟に対応するため、設定期間を限って流動的に運用するための細目で、「①既存の細目に対応できない新たな研究分野」又は「②既存の細目に対応することは可能であるが、別の体系でまとめた方が、より適切な審査を行うことができる研究分野」が対象	分野の枠を超えた学術研究の動向調査に基づき、未開のまま残された重要な分野、技術の長足な進歩によって生まれつつある新しい分野、分野横断的な研究から生まれることが期待される新分野などを集中的に支援
対象種目	基盤研究(C) 応募総額：500万円以下 研究期間：3～5年	基盤研究(B)・基盤研究(C) 応募総額：2000万円以下 研究期間：3～5年
他種目との重複制限	基盤研究(C)には1件しか応募できない。	基盤研究(A・B・C)など他種目との重複応募を可能とする。
配分方法	科研費の配分方式により応募件数・応募金額により配分する。	予算額に応じて配分する。
審査方法	二段審査制 書面審査と合議審査を別の審査委員が行う。	書面審査と合議審査を同一の審査委員が行う。 (必要に応じて書面審査を外部審査委員が行う)
分野設定数	毎年度3～4件程度	研究期間内1～2件
制度の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則3年間の設定期間終了後、応募件数が100件程度あったものは細目表に採用される。</li> <li>細目表に採用されるだけの応募(研究者からの当該細目への需要)があるかを見極めるため試行的に細目を設定しているため、比較的少額の研究費を交付している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JSPSが採択者等を集めたシンポジウムを毎年度開催し、当該分野の振興を積極的に推進する。</li> <li>一定期間対象分野を集中的に支援するため、比較的中規模の研究費を交付する。</li> </ul>
制度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>細目が増える要因となっており、審査がより細分化されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象分野の選定プロセスの確立。</li> <li>研究期間が終了した後の対象分野の取扱い。</li> </ul>

## 科学研究費助成事業「系・分野・分科・細目表」について

- 科学研究費助成事業のうち「基盤研究」等への応募者は、応募に際して、「系・分野・分科・細目表」から審査希望分野を選定することとしている。

### 【平成25年度科学研究費助成事業公募要領（関連部分抜粋）】

④ 応募に際して、次のとおり審査希望分野を選定すること。

2) 「基盤研究」（審査区分「一般」）、「挑戦的萌芽研究」及び「若手研究（A）」に応募する場合

応募に際しては、研究計画の内容に照らし、審査希望分野を示す分類表である別表2「平成25年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表」（以下、「細目表」という。）から適切な細目を1つ必ず選定するとともに、別表3「付表キーワード一覧」より、選定した細目内で最も関連が深いと思われるキーワードを1つ必ず選定してください。

「時限付き分科細目」について（「基盤研究（C）」における特例）

学術研究の動向に柔軟に対応するため、設定期間を限って流動的に運用する「時限付き分科細目」を「細目表」の別表として設けています。「基盤研究（C）」についてのみ、この「時限付き分科細目表」から審査希望分野として1分野を選定できます。なお、研究期間は分野の設定期間にかかわらず、3～5年間となります。

- 「時限付き分科細目」については、文部科学省からの依頼に基づき、学術システム研究センターにおいて、毎年度、新分野候補選定等のための検討を行い、その結果については科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会に報告を行い、同部会において審議決定が行われている。

# 別表2 系・分野・分科・細目表

## (1)平成25年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考	系	分野	分科	細目名	細目番号	備考
総合系	情報学	情報学基礎	情報学基礎理論	1001		人文社会系	総合人文社会	地域研究	地域研究	2701	
			数理情報学	1002				ジェンダー	ジェンダー	2801	
			統計科学	1003				哲学	哲学・倫理学	2901	
		計算機システム	1101		中国哲学・印度哲学・仏教		2902		※		
		ソフトウェア	1102		宗教学		2903				
		計算基盤	情報ネットワーク	1103			思想史	2904			
			マルチメディア・データベース	1104			芸術学	美学・芸術諸学	3001		
			高性能計算	1105				美術史	3002		
			情報セキュリティ	1106				芸術一般	3003		
			人間情報学	認知科学	1201			日本文学	3101		
				知覚情報処理	1202			英米・英語圏文学	3102		
		ヒューマンインタフェース・インタラクション		1203			ヨーロッパ文学	3103			
		知能情報学		1204			中国文学	3104			
		ソフトコンピューティング		1205			文学一般	3105			
		知能ロボティクス		1206			言語学	言語学	3201	※	
	感性情報学	1207		日本語学	3202						
	生命・健康・医療情報学	1301		英語学	3203						
	情報学フロンティア	ウェブ情報学・サービス情報学	1302	A	日本語教育	3204					
		図書館情報学・人文社会情報学	1303	A	外国語教育	3205	※				
			B		史学一般	3301					
		学習支援システム	1304		日本史	3302					
		エンタテインメント・ゲーム情報学	1305		アジア史・アフリカ史	3303					
		環境動態解析	1401		ヨーロッパ史・アメリカ史	3304					
	環境学	環境解析学	放射線・化学物質影響科学	1402	A	考古学	3305				
			B		人文地理学	人文地理学	3401				
		環境保全学	環境影響評価	1403		文化人類学	文化人類学・民俗学	3501			
			環境技術・環境負荷低減	1501		法学	基礎法学	3601			
			環境モニタリング・保全修復技術	1502			公法学	3602			
			環境材料・リサイクル	1503			国際法学	3603			
		環境リスク制御・評価	1504		社会法学		3604				
		環境創成学	自然共生システム	1601			刑事法学	3605			
			持続可能システム	1602			民事法学	3606			
			環境政策・環境社会システム	1603		新領域法学	3607				
	複合領域	デザイン学	デザイン学	1651		政治学	国際関係論	3701			
			家政・生活学一般	1701		国際関係論	3702				
		生活科学	衣・住生活学	1702		社会科学	理論経済学	3801			
			食生活学	1703	A		経済学説・経済思想	3802			
			B		経済統計		3803				
		科学教育・教育工学	科学教育	1801	※		経済政策	3804			
		教育工学	1802	※	財政・公共経済		3805				
		科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	1901			金融・ファイナンス	3806			
		文化財科学・博物館学	文化財科学・博物館学	2001	A	経済史	3807				
		B		経営学	経営学	3901	※				
		地理学	地理学		2101		商学	3902			
		社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム		2201	A	会計学	3903			
B			社会学	社会学	4001	※					
自然災害科学・防災学		2202		A	社会福祉学	4002					
B				社会心理学	4101						
人間医工学	生体医工学・生体材料学	2301	A	教育心理学	4102						
	B		臨床心理学	4103							
	医用システム	2302		実験心理学	4104						
	医療技術評価学	2303		教育学	教育学	4201	※				
	リハビリテーション科学・福祉工学	2304	A		教育社会学	4202					
	B		教科教育学		4203	※					
健康・スポーツ科学	身体教育学	2401	A	特別支援教育	4204						
	B		ナノ・マイクロ科学	ナノ構造化学	4301						
	スポーツ科学	2402		A	ナノ構造物理	4302					
	B			ナノ材料化学	4303						
応用健康科学	2403	A	ナノ材料工学	4304							
B		ナノバイオサイエンス	4305								
子ども学	子ども学(子ども環境学)	2451		ナノマイクロシステム	4306						
	生体分子科学	生物分子化学	2501		理工系	総合理工	応用物理学	応用物性	4401		
		ケミカルバイオロジー	2502					結晶工学	4402		
	脳科学	基盤・社会脳科学	2601	A				薄膜・表面界面物性	4403		
B			光工学・光子科学	4404							
脳計測科学	2602		プラズマエレクトロニクス	4405							
B		応用物理学一般	4406								
数物系科学	量子ビーム科学	量子ビーム科学	4501		計算科学	計算科学	4601				
		数学	代数学	4701		※					
			幾何学	4702		※					
	解析学基礎		4703	※							
	数学解析	4704		天文学	天文学	4801					
	数学基礎・応用数学	4705			物理学	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	4901	※			
	天文学	天文学	4801				物性 I	4902			
		物理学	物性 I	4902		※	物性 II	4903			
			数理物理・物性基礎	4904			数理論理・物性基礎	4904			
	原子・分子・量子エレクトロニクス		4905			生物物理・化学物理・ソフトマターの物理	4906				
	生物物理・化学物理・ソフトマターの物理	4906		地球惑星科学		固体地球惑星物理学	5001				
	気象・海洋物理・陸水学	5002			超高層物理学	5003					
	超高層物理学	5003			地質学	5004					
	地質学	5004			層位・古生物学	5005					
	層位・古生物学	5005			岩石・鉱物・鉱床学	5006					
岩石・鉱物・鉱床学	5006		地球宇宙化学		5007						
地球宇宙化学	5007		プラズマ科学	プラズマ科学	5101						

備考欄において、「A、B」と表示のある細目は、全ての種目においてキーワードにより分割されたグループ毎に第1段審査を行うので、これらの細目に応募する場合は、「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧(39～57頁参照)により、必ず、A又はBを選択し、応募してください。

「※」の表示のある細目は、基盤研究(C)においてキーワードにより分割されたグループ毎に第1段審査を行うので、基盤研究(C)で、これらの細目に応募する場合には、「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧により、必ず「1」～「5」の分割番号を選択し応募してください。

基盤研究(C)については、審査希望分野として、本表のほか「時限付き分科細目表」(34～38頁参照)に掲げる15細目を設定しています。

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考	
理工系	化学	基礎化学	物理化学	5201		
			有機化学	5202		
			無機化学	5203		
		複合化学	機能物性化学	5301		
			合成化学	5302		
			高分子化学	5303		
			分析化学	5304		
			生体関連化学	5305		
			グリーン・環境化学	5306		
		材料化学	エネルギー関連化学	5307		
			有機・ハイブリッド材料	5401		
			高分子・繊維材料	5402		
			無機工業材料	5403		
			デバイス関連化学	5404		
			機械材料・材料力学	5501		
	機械工学	生産工学・加工学	5502			
		設計工学・機械機能要素・トライボロジー	5503			
		流体工学	5504			
		熱工学	5505			
		機械力学・制御	5506			
		知能機械学・機械システム	5507			
	電気電子工学	電力工学・電力変換・電気機器	5601			
		電子・電気材料工学	5602			
		電子デバイス・電子機器	5603			
		通信・ネットワーク工学	5604			
		計測工学	5605			
		制御・システム工学	5606			
	土木工学	土木材料・施工・建設マネジメント	5701			
		構造工学・地震工学・維持管理工学	5702			
		地盤工学	5703			
		水工学	5704			
		土木計画学・交通工学	5705			
		土木環境システム	5706			
	建築学	建築構造・材料	5801			
		建築環境・設備	5802			
		都市計画・建築計画	5803			
	材料工学	建築史・意匠	5804			
		金属物性・材料	5901			
		無機材料・物性	5902			
		複合材料・表面工学	5903			
		構造・機能材料	5904			
		材料加工・組織制御工学	5905			
	プロセス・化学工学	金属・資源生産工学	5906			
		化工物性・移動操作・単位操作	6001			
		反応工学・プロセスシステム	6002			
触媒・資源化学プロセス		6003				
生物機能・ハイオプロセス		6004				
航空宇宙工学		6101				
総合工学	船舶海洋工学	6102				
	地球・資源システム工学	6103				
	核融合学	6104				
	原子力学	6105				
	エネルギー学	6106				
	6201					
生物系	総合生物	神経科学	神経生理学・神経科学一般	6201		
			神経解剖学・神経病理学	6202	A B	
			神経化学・神経薬理学	6203		
		実験動物学	実験動物学	6301		
			腫瘍学	腫瘍生物学	6401	A B
				腫瘍診断学	6402	
	腫瘍治療学	6403				
	ゲノム科学	ゲノム生物学	6501			
		ゲノム医科学	6502			
		システムゲノム科学	6503			
	生物資源保全学	生物資源保全学	6601			
	生物学	生物科学	分子生物学	6701		
			構造生物化学	6702		
			機能生物化学	6703		
			生物物理学	6704		
細胞生物学			6705			
発生生物学			6706			
基礎生物学		植物分子・生理科学	6801			
		形態・構造	6802			
		動物生理・行動	6803			
		遺伝・染色体動態	6804			
		進化生物学	6805			
		生物多様性・分類	6806			
人類学		生態・環境	6807			
		自然人類学	6901			
		応用人類学	6902			

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考
生物系	農学	生産環境農学	遺伝育種科学	7001	
			作物生産科学	7002	
			園芸科学	7003	
			植物保護科学	7004	A B
		農芸化学	植物栄養学・土壌学	7101	
			応用微生物学	7102	
			応用生物化学	7103	
			生物有機化学	7104	
			食品科学	7105	
		森林園科学	森林科学	7201	
			木質科学	7202	
		水圏応用科学	水圏生産科学	7301	A B
			水圏生命科学	7302	
		社会経済農学	経営・経済農学	7401	
			社会・開発農学	7402	
	農業工学	地域環境工学・計画学	7501		
		農業環境・情報工学	7502	A B	
	動物生命科学	動物生産科学	7601	A B	
		獣医学	7602	A B	
		統合動物科学	7603	A B	
	境界農学	昆虫科学	7701		
		環境農学(含ランドスケープ科学)	7702	A B	
	薬学	応用分子細胞生物学	7703		
		化学系薬学	7801		
		物理系薬学	7802		
		生物系薬学	7803		
		薬理系薬学	7804		
		天然資源系薬学	7805		
		創薬化学	7806		
		環境・衛生系薬学	7807		
		医療系薬学	7808	※	
		解剖学一般(含組織学・発生学)	7901	※	
		生理学一般	7902		
		環境生理学(含体力医学・栄養生理学)	7903		
		薬理学一般	7904		
		医化学一般	7905		
		病態医学	7906		
	基礎医学	境界医学	7907		
	人体病理学	7908	※		
	実験病理学	7909	※		
	寄生虫学(含衛生動物学)	7910			
	細菌学(含真菌学)	7911			
	ウイルス学	7912			
	免疫学	7913			
	境界医学	医療社会学	8001		
		応用薬理学	8002		
		病態検査学	8003		
	社会医学	疼痛学	8004		
		疫学・予防医学	8101		
		衛生学・公衆衛生学	8102		
	医歯薬学	内科系臨床医学	病院・医療管理学	8103	
			法医学	8104	
			内科学一般(含心身医学)	8201	
			消化器内科学	8202	※
			循環器内科学	8203	※
呼吸器内科学			8204	※	
腎臓内科学		8205	※		
神経内科学		8206	※		
代謝学		8207	※		
内分泌学		8208			
血液内科学		8209	※		
膠原病・アレルギー内科学		8210	※		
感染症内科学		8211			
小児科学		8212	※		
胎児・新生児医学		8213			
皮膚科学	8214	※			
精神神経科学	8215	※			
放射線科学	8216	※			
外科系臨床医学	外科学一般	8301	※		
	消化器外科学	8302	※		
	心臓血管外科学	8303	※		
	呼吸器外科学	8304	※		
	脳神経外科学	8305	※		
	整形外科学	8306	※		
	麻酔科学	8307	※		
	泌尿器科学	8308	※		
	産婦人科学	8309	※		
	耳鼻咽喉科学	8310	※		
	眼科学	8311	※		
	小児外科学	8312	※		
	形成外科学	8313	※		
	救急医学	8314	※		
	歯学	形態系基礎歯科学	8401		
機能系基礎歯科学		8402			
病態科学系歯学・歯科放射線学		8403			
保存治療系歯学		8404			
補綴・理工系歯学		8405			
歯科医用工学・再生歯学		8406			
外科系歯学		8407	※		
矯正・小児系歯学		8408			
歯周治療系歯学		8409			
社会系歯学		8410			
看護学	基礎看護学	8501			
	臨床看護学	8502			
	生涯発達看護学	8503			
	高齢看護学	8504			
	地域看護学	8505			

## (2)平成25年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表の別表

### ○時限付き分科細目表

分 野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
生 命 倫 理 学	<p>「生命倫理学(バイオエシックス)」は、生命に関する倫理的な問題を扱う研究分野とは言え、単なる倫理学の一分野ではなく、哲学、倫理学、社会学、法学、経済学、政治学、文化人類学、技術史といった文系学問分野と、生物学、生命科学、人類学、遺伝学、衛生学、薬学、基礎医学、臨床医学、法医学、看護学といった理系学問分野とが交差する学際的な研究分野である。</p> <p>生命倫理学は1970年代にアメリカで生まれたが、特に遺伝子工学、バイオテクノロジー、先端医療技術が急速に発展し変貌を遂げてきているなかで、我が国のみならず世界中で重要性を増してきている。本分野においては、インフォームド・コンセント、自己決定権、人工妊娠中絶、代理母出産、遺伝子診断、脳死臓器移植、安楽死・尊厳死、終末期医療、看護倫理、ヒトクローン研究、実験動物、遺伝子組換え等々、長く議論が続けられながらも、いまだ解決を見ない問題が多いなか、さまざまな方面からの意欲的な研究の推進を期待する。</p>	9043	
観 光 学	<p>観光学の学問的発展は、わが国の観光立国推進の政策を学術の面から支える意味を持つ。これまで観光に関する学術研究は、エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズム、ヘルス・ツーリズム、産業文化観光などのニューツーリズム、観光の経済効果、観光による地域社会・文化への影響、観光によるまちづくりと地域振興、国際観光政策、旅行者の行動・心理など、多様な観点から学際的に研究されてきた。しかし、これらの研究成果は、経営学、商学、経済学、地理学、社会学、心理学、土木工学、都市工学、建築学、環境などの各領域で広範囲にわたり学際的に研究され、各領域での研究活動としては活発化しているものの、観光学を更に学問的に発展させるためには、これらの分散した研究領域を学際融合させることが求められる。</p> <p>本分野においては、観光学の独創的な展開に関わる基礎理論から各種の応用的研究、更には、観光に関わる経済社会の発展に寄与する実践的な学問的取り組みを含んだ意欲的な研究の推進を期待する。</p>	9044	平成23年度 ～ 平成25年度
安全環境計測法	<p>現代産業社会が生み出す様々な人工化合物群は、本来の天然の分子連鎖システムに多大の影響を与え、分子緩衝系の安全性を地球規模で脅かす状況にあるため、社会の広い分野において、安全・安心を確立するための新たな計測法とmetrology(計測の科学)の構築が重要な課題となっており、生命の安全、食の安全、医療の安全、環境の安全等を保障する計測分析法におけるイノベーションが必要とされている。</p> <p>本分野は、社会生活の中で使用可能な簡易、小型、省エネルギー、廉価な分離法、検出法、分析試薬の開発やイメージング技術、ウィルス・病原菌・花粉などの生体環境微粒子の計測分析技術、磁場、電場、光、熱などを利用するマイクロ分析法の開発研究とともに、地雷、バイオテロ、酸性雨、温暖化、食品、医療、環境等の課題にも対応し、空間再現性の向上に配慮した技術開発と応用研究までの広がりを持つ。本分野においては、生命体や地球環境における分子リサイクル・分子安全保障システムの解明、さらにはアジアの環境分析ネットワークの構築に貢献する、安全環境計測法の意欲的な研究を期待する。</p>	9045	

分 野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
エピジェネティクス	<p>ゲノムが持つ遺伝情報の発現制御は塩基配列だけで規定されているわけではない。遺伝情報の発現はエピジェネティクスと呼ばれるゲノムDNAと、ヒストンなどの蛋白質から構成されるクロマチンが受ける化学的、構造的な修飾によって影響される、安定的かつ可塑的な情報発現制御機構によって調節されている。エピジェネティクスは、胚発生、組織特異的な遺伝情報の発現、体細胞クローン、ゲノムインプリンティングなどの生理的現象から、老化、がん、神経変性疾患など、多岐に渡る生命現象に関与することから、生命科学研究の大きな流れの1つになっている。</p> <p>本分野では、これら多くの生命現象に共通するエピジェネティクスの作動原理・制御機構・破綻機構の理解に向け、ゲノム科学、分子生物学、細胞生物学、生化学、発生生物学、遺伝学、神経科学などの既存の学問の枠を超えた、エピジェネティクスの基本原理解明を目指す意欲的な研究を期待する。</p>	9046	
統合栄養科学	<p>栄養学は、成長や生命の維持に関する代謝、生理、栄養素などの理解を通して健康の増進や体力・体型の向上に大きく貢献してきた。しかし、一方において、過食・飽食、生活習慣、ストレス、高齢化など、栄養学における新たな課題も顕在化してきている。近年の生命科学の発展と分析・情報処理技術の目覚ましい進歩は、栄養学研究における、分子、細胞、実験動物からヒト集団までを対象とした新しい切り口でのアプローチを可能にしつつあり、このような栄養学の新たな展開を加速させるためには、食生活学、応用健康科学、食品科学、臨床医学など、既存の枠組みを超えた横断的な研究コミュニティの形成が必要である。</p> <p>本分野では、複雑化・多様化した現代社会における健康の維持・増進、疾病の予防や治療効果促進などを目指し、栄養学の学術基盤の構築から臨床・現場への展開まで視野に入れた、多面的な研究が推進されることを期待する。</p>	9047	平成23年度 ～ 平成25年度
再生医学・医療	<p>人間のように複雑な多細胞生物は、胎生期の発達段階のみならず、出生後も多くの組織、臓器で常に細胞が新しく更新されている。再生医療は、このような個体のもつ各組織レベルでの修復能力を制御することにより、損傷を受けた組織、臓器を再生することを目標としており、具体的には、体性幹細胞、胚性幹（ES）細胞、iPS細胞などの幹細胞の分化誘導法、純化法の開発、分化誘導因子の同定など、体内において幹細胞分化を制御する方法の開発、細胞移植法の開発、移植組織の生体適合性を促す組織工学の開発などの研究を対象とする。再生医療は、これまで治療法がなかった、心臓疾患や中枢神経疾患などの難治疾患の治療ばかりでなく、高齢者の機能障害改善によるQOL改善とそれにとまなう医療費の削減等も期待される21世紀の先進医療である。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9048	
ケ ア 学	<p>少子高齢社会の問題、医療や看護の倫理的問題、子どもから高齢者までが抱える心の問題などの様々な背景から、21世紀は「ケアの世紀」となると言われている。ケア（care）という語は、看護・介護・世話・手当・配慮・気遣いなど様々に訳されて、医療・看護・介護・福祉・心理・教育・倫理・哲学など様々な分野で使われ議論されてきたが、特定の訳語によって特定の分野に限定されることを避け、各々の分野を越えて議論する必要から、「ケア」という表記が定着してきた。</p> <p>1980年代頃から、境界を超えたケアについての研究が現れ、その動向は2000年の介護保険の施行を挟んでますます広がっている。ケア学は、様々な学問分野に跨って多くの研究者が学際的に参加し、臨床やフィールドの現場に即した調査を行うとともに、文献調査や海外との学術的交流に基づく理論的研究を行うことで、独自の分野として確立されることが望まれている。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9049	平成24年度 ～ 平成26年度

分 野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
文 化 学	<p>言語と文化を中心に、文化学、文化研究（カルチュラルスタディーズ）、文化史、比較文化（比較文学的研究も含む）、異文化理解・国際理解、国際交流、文化交流史、ポストコロニアリズム、ナショナリズム、アイデンティティ、ミグレーションなどの、人文学のみならず社会科学領域の幅広い学際的視野・発想をも含む研究を対象とする。社会学、経済学、法学の学問的方法や興味が同時に混在する可能性を排除しないことで斯学の発達発展に寄与する。例えば、ナショナリズム研究においては、文化、社会、政治、経済などの多面にわたる研究領域の知見が必要であるが、そうした分野横断的研究の可能性をより広げるとともに、様々な新しい文化研究の成果を吸収することで、本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9050	
土地・住宅・不動産研究	<p>土地・住宅など不動産に関する研究は、これまでの都市における土地利用や住宅問題などの社会問題を背景とした研究内容に加えて、現代の少子高齢化社会においては、中心市街活性化、まちづくり、都市および地域再生、不動産市場、不動産金融、不動産資産評価、不良債権問題や不動産証券化など、その範囲は拡大している。また、土地・住宅など不動産は国民総資産の多くの部分を占め、国民生活の質の向上を考える上で、資産とりわけ土地・住宅資産は適切に評価され、家計や企業、行政機関の経営に有効活用する必要がある。本分野では、経済学、都市計画・社会工学、法学、社会福祉学、社会学、心理学、政治学、建築学、住居学等さまざまな学術研究分野に跨る複合的な性格を持つ土地・住宅・不動産に関する意欲的な研究を期待する。</p>	9051	平成24年度
オミクス計測科学	<p>自然科学の新しい方法論であるオミクス計測科学は、総体（オーム）を構成する単位（例えば分子）に対する網羅的あるいは焦点を絞った計測（同定・解析）を基盤とし、プロテオミクス、メタボロミクス（生体、一細胞、天然物など）とメタボノミクス（薬学）、グライコミクス、リポドミクス、メタロミクス、アダクトミクス、ゲノミクス、トランスクリプトミクス、及び複合ミクス（例えばグライコプロテオミクス）などに関する計測原理・解析原理と規範的応用研究が含まれる。各オミクスには分子固有の性質があり、その性質に応じた計測の課題がある。例えば、糖鎖や脂質はタンパク質・ペプチドとは大きく異なる。計測法の種別として、非破壊計測、可視化・イメージング計測（局所、三次元）、オンサイト計測、分光、質量、イオン、レーザーがあり、さらに、計測データを扱うデータベースなど情報科学研究も包含する。加えて、質量分析については、質量分析学の体系化につながる反応計算法学、物理化学、気相化学、イオン光学、イメージングの計測原理研究と計測内容としての定性、定量、構造、機能（構造機能）解析、分子関連解析に関する原理と規範的応用研究なども含まれる。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9052	～ 平成26年度
宇 宙 生 命 科 学	<p>宇宙生命科学は、宇宙環境を利用して生命の起源を探るアストロバイオロジー、地上とは異なる宇宙環境下で微生物や動植物及びヒトの適応と生存機構を解明する重力生物学並びに放射線生物学、そして宇宙実験の実施や人類が宇宙へ進出するために必要な工学、医学、農学諸分野を含む、広範で独創性に富んだ研究領域である。宇宙環境を利用した宇宙実験により、今日のように多様性に富んだ生命が地球で誕生し、巧みに地球環境に適応、進化してきたしくみの根幹にせまることができると期待されている。また、宇宙開発利用の促進、地球外視点での環境保全、宇宙時代の次世代教育等に対応できる学問分野としては現状で唯一である。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9053	

分野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
睡眠科学	<p>睡眠に関する研究は、基礎生物学から臨床医学まで、さらに社会学、工学、文化学等幅広い分野にまたがるものである。基礎生物学の中でも、生理学、薬学、分子生物学、心理学、行動科学などが、臨床医学に関しても、精神医学、神経内科学、呼吸器内科学、耳鼻科学、口腔外科学、歯学といった多数の研究領域が関連する学際的な研究分野である。睡眠をはじめとする生物時計の研究が生物学研究の大きな潮流となり、また現代の高度技術化社会にあって生産活動や経済利益を重視するあまり、睡眠障害に起因する大事故も頻発しており、睡眠科学の研究は興味ある学問分野としてだけでなく社会的要請としても世界中で重要性を増している。</p> <p>本分野においては、睡眠、概日リズム、生物時計などの基礎研究から、睡眠異常、睡眠時随伴症、睡眠障害の機序と治療などの臨床医学研究、さらに睡眠をめぐる社会学、工学、文化学等さまざまな方面からの実践的な学問的取り組みを含んだ意欲的な研究の推進を期待する。</p>	9054	平成24年度 ～ 平成26年度
震災問題と人文科学・社会科学	<p>東日本大震災をはじめとする激甚な人的・物的被害をもたらした大震災は、さまざまな危機を日本社会に与えてきた。それらの危機的な状況を乗り越えていくためには、土木・建築等の分野を中心に行われてきた大震災による物的環境・インフラ被害の実態把握と復旧・復興に関する研究だけでなく、社会経済的な被害及びその復旧・復興に関する組織的・体系的な研究が不可欠である。研究アプローチの多様性・領域横断性への対応、研究支援の継続性の維持、対象地域の広域性及び被災地特性の個性性への配慮を担保しつつ、復興支援さらには将来の減災対策に向けた知的基盤の充実を図るためには、震災問題をテーマとする人文科学・社会科学のさまざまな領域における研究が必要である。</p> <p>本分野は、既存細目では扱いきれない「新たな視点からの研究」をも促進し、「災害の人文科学・社会科学」の体系化に向けた契機となりうる点で、重要性が高い。既存細目内の課題設定を超えて「震災の被害と復興の全体像」を領域横断的に把握するため、人文科学・社会科学系諸領域での研究促進と知見共有化の契機となる研究を期待する。</p>	9055	
復興農学	<p>復興農学は、農学分野で農学の多様な問題をカバーしているものの東日本大震災のような大震災を想定していなかったために、復旧・復興という社会的なニーズに迅速かつ総合的に対応できなかったことから、千年の時間スケールの災害にも柔軟に対応でき、持続可能な農山漁村の設計と農林水産業を創出することを目指す分野である。ただし、復興農学は単なる今回の震災からの復興だけを意図するものではなく、将来的には予防原理に基づいて、昨今の気候変動に起因する気象災害や水害を受けた農村・山村・漁村の復興、あるいは国際問題や外圧による我が国の農業への予測できない打撃からの農林水産業復興等も対象として発展することを期待する。</p> <p>本分野では、＜計画系＞として、震災復興のための農村・山村・漁村計画学／災害リスク管理・災害復興に関する農山漁村社会・経済システムの設計等、＜メカニズム解明と影響評価系＞として、大震災による生態系（流域・森林・農耕地・沿岸・海洋）のモニタリングと影響評価／農作物・水産物・家畜等への放射性物質の移行・蓄積・代謝解析／農畜水産物の食品加工過程における放射性物質の動態解析等、＜技術開発系＞として、農山漁村社会インフラの復旧技術開発／農耕地や生活圏の除塩・除染のための技術開発／環境修復・浄化・濃縮技術（微生物・植物を利用したバイオ・ファイトレメディエーション、水系からの放射性物質の濃縮除去）／耐塩性作物の育種／放射性汚染バイオマスの減量化および除染法の開発／災害物質廃棄物のバイオマス燃料への有効利用、緊急時生鮮食料供給システムの構築（野菜工場）等、＜人材育成＞として、復興農学のサイエンスコミュニケーション・アウトリーチ等、を重点化するべき項目として、本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9056	平成25年度 ～ 平成27年度

分 野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
公 共 政 策	<p>公共政策の研究は、経済政策、都市政策、防災政策など各種の中央地方の政府による政策を対象とするが、広い意味での政策は、さらに政策、施策、実施、評価などレベルに分けることもできる。日本公共政策学会の過去15年の報告や学会誌や紀要に掲載された研究論文では、法学、政治学、経済学系統の諸分野に帰することができるものが多いが、他方、既存の諸ディシプリンの協力提携が新しい公共政策という研究分野を作り出している部分も観察できる。たとえば、「法と経済」はディシプリンの協力によって生まれた領域として典型的な事例である。経済の政治分析をするという「政治経済学」の主張も、少なくとも一時、世界の政治学の主流であった。経済学を中心に発展した「公共経済学（たとえば、ブキャナン）」は、高いレベルの政治学教育では必須とされている。「公共政策」の文献においては、その形成過程については政治学の分析の対象であり、政策のアイデアに関しては、経済学、福祉学、環境学、都市計画学などの諸研究分野において成果が示され、それらの諸政策が実現するためには政府や自治体の法律、政令、条例など「法」の形式で表現されてはじめて一般性を得る。また、政策の合法性が問題になるときは、裁判所の判例が分析の対象とされる。公共政策の名で、いくつかの分野で既存ディシプリンが他のディシプリンを取り込んで社会科学を拡張させる傾向が見られる。諸社会科学分野の協力提携は、社会科学のそれぞれの分野の研究水準を高めると共に、新しい研究分野を成立させる可能性があると言えよう。キーワードとしては、法と経済、政治経済学、政策評価、都市計画、福祉政策・環境政策などの諸政策、ガバナンス、NGO/NPO、公共経済、公共選択、国債・財政赤字、金融とバブル、戦略論、国際公共政策などが考えられる。</p>	9057	平成25年度 ～ 平成27年度

(注1) この表は、本表と併せて基盤研究(C)「一般」についてのみ適用されるものです。

(注2) 設定期間は公募を行う予定の年度です。設定期間にかかわらず3～5年間の研究課題を対象とします。

## (2)平成25年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表の別表

### ○時限付き分科細目表

分 野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
生 命 倫 理 学	<p>「生命倫理学（バイオエシックス）」は、生命に関する倫理的な問題を扱う研究分野とは言え、単なる倫理学の一分野ではなく、哲学、倫理学、社会学、法学、経済学、政治学、文化人類学、技術史といった文系学問分野と、生物学、生命科学、人類学、遺伝学、衛生学、薬学、基礎医学、臨床医学、法医学、看護学といった理系学問分野とが交差する学際的な研究分野である。</p> <p>生命倫理学は1970年代にアメリカで生まれたが、特に遺伝子工学、バイオテクノロジー、先端医療技術が急速に発展し変貌を遂げてきているなかで、我が国のみならず世界中で重要性を増してきている。本分野においては、インフォームド・コンセント、自己決定権、人工妊娠中絶、代理母出産、遺伝子診断、脳死臓器移植、安楽死・尊厳死、終末期医療、看護倫理、ヒトクローン研究、実験動物、遺伝子組換え等々、長く議論が続けられながらも、いまだ解決を見ない問題が多いなか、さまざまな方面からの意欲的な研究の推進を期待する。</p>	9043	
観 光 学	<p>観光学の学問的発展は、わが国の観光立国推進の政策を学術の面から支える意味を持つ。これまで観光に関する学術研究は、エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズム、ヘルス・ツーリズム、産業文化観光などのニューツーリズム、観光の経済効果、観光による地域社会・文化への影響、観光によるまちづくりと地域振興、国際観光政策、旅行者の行動・心理など、多様な観点から学際的に研究されてきた。しかし、これらの研究成果は、経営学、商学、経済学、地理学、社会学、心理学、土木工学、都市工学、建築学、環境などの各領域で広範囲にわたり学際的に研究され、各領域での研究活動としては活発化しているものの、観光学を更に学問的に発展させるためには、これらの分散した研究領域を学際融合させることが求められる。</p> <p>本分野においては、観光学の独創的な展開に関わる基礎理論から各種の応用的研究、更には、観光に関わる経済社会の発展に寄与する実践的な学問的取り組みを含んだ意欲的な研究の推進を期待する。</p>	9044	平成23年度 ～ 平成25年度
安全環境計測法	<p>現代産業社会が生み出す様々な人工化合物群は、本来の天然の分子連鎖システムに多大の影響を与え、分子緩衝系の安全性を地球規模で脅かす状況にあるため、社会の広い分野において、安全・安心を確立するための新たな計測法とmetrology（計測の科学）の構築が重要な課題となっており、生命の安全、食の安全、医療の安全、環境の安全等を保障する計測分析法におけるイノベーションが必要とされている。</p> <p>本分野は、社会生活の中で使用可能な簡易、小型、省エネルギー、廉価な分離法、検出法、分析試薬の開発やイメージング技術、ウィルス・病原菌・花粉などの生体環境微粒子の計測分析技術、磁場、電場、光、熱などを利用するマイクロ分析法の開発研究とともに、地雷、バイオテロ、酸性雨、温暖化、食品、医療、環境等の課題にも対応し、室間再現性の向上に配慮した技術開発と応用研究までの広がりを持つ。本分野においては、生命体や地球環境における分子リサイクル・分子安全保障システムの解明、さらにはアジアの環境分析ネットワークの構築に貢献する、安全環境計測法の意欲的な研究を期待する。</p>	9045	

分 野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
エピジェネティクス	<p>ゲノムが持つ遺伝情報の発現制御は塩基配列だけで規定されているわけではない。遺伝情報の発現はエピジェネティクスと呼ばれるゲノムDNAと、ヒストンなどの蛋白質から構成されるクロマチンが受ける化学的、構造的な修飾によって影響される、安定的かつ可塑的な情報発現制御機構によって調節されている。エピジェネティクスは、胚発生、組織特異的な遺伝情報の発現、体細胞クローン、ゲノムインプリンティングなどの生理的現象から、老化、がん、神経変性疾患など、多岐に渡る生命現象に関与することから、生命科学研究の大きな流れの1つになっている。</p> <p>本分野では、これら多くの生命現象に共通するエピジェネティクスの作動原理・制御機構・破綻機構の理解に向け、ゲノム科学、分子生物学、細胞生物学、生化学、発生生物学、遺伝学、神経科学などの既存の学問の枠を超えた、エピジェネティクスの基本原理解明を目指す意欲的な研究を期待する。</p>	9046	
統合栄養科学	<p>栄養学は、成長や生命の維持に関する代謝、生理、栄養素などの理解を通して健康の増進や体力・体型の向上に大きく貢献してきた。しかし、一方において、過食・飽食、生活習慣、ストレス、高齢化など、栄養学における新たな課題も顕在化してきている。近年の生命科学の発展と分析・情報処理技術の目覚ましい進歩は、栄養学研究における、分子、細胞、実験動物からヒト集団までを対象とした新しい切り口でのアプローチを可能にしつつあり、このような栄養学の新たな展開を加速させるためには、食生活学、応用健康科学、食品科学、臨床医学など、既存の枠組みを超えた横断的な研究コミュニティの形成が必要である。</p> <p>本分野では、複雑化・多様化した現代社会における健康の維持・増進、疾病の予防や治療効果促進などを目指し、栄養学の学術基盤の構築から臨床・現場への展開まで視野に入れた、多面的な研究が推進されることを期待する。</p>	9047	平成23年度 ～ 平成25年度
再生医学・医療	<p>人間のように複雑な多細胞生物は、胎生期の発達段階のみならず、出生後も多くの組織、臓器で常に細胞が新しく更新されている。再生医療は、このような個体のもつ各組織レベルでの修復能力を制御することにより、損傷を受けた組織、臓器を再生することを目標としており、具体的には、体性幹細胞、胚性幹（ES）細胞、iPS細胞などの幹細胞の分化誘導法、純化法の開発、分化誘導因子の同定など、体内において幹細胞分化を制御する方法の開発、細胞移植法の開発、移植組織の生体適合性を促す組織工学の開発などの研究を対象とする。再生医療は、これまで治療法がなかった、心臓疾患や中枢神経疾患などの難治疾患の治療ばかりでなく、高齢者の機能障害改善によるQOL改善とそれにとまなう医療費の削減等も期待される21世紀の先進医療である。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9048	
ケ ア 学	<p>少子高齢社会の問題、医療や看護の倫理的問題、子どもから高齢者までが抱える心の問題などの様々な背景から、21世紀は「ケアの世紀」となると言われている。ケア（care）という語は、看護・介護・世話・手当・配慮・気遣いなど様々に訳されて、医療・看護・介護・福祉・心理・教育・倫理・哲学など様々な分野で使われ議論されてきたが、特定の訳語によって特定の分野に限定されることを避け、各々の分野を越えて議論する必要から、「ケア」という表記が定着してきた。</p> <p>1980年代頃から、境界を超えたケアについての研究が現れ、その動向は2000年の介護保険の施行を挟んでますます広がっている。ケア学は、様々な学問分野に跨って多くの研究者が学際的に参加し、臨床やフィールドの現場に即した調査を行うとともに、文献調査や海外との学術的交流に基づく理論的研究を行うことで、独自の分野として確立されることが望まれている。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9049	平成24年度 ～ 平成26年度

分 野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
文 化 学	<p>言語と文化を中心に、文化学、文化研究（カルチュラルスタディーズ）、文化史、比較文化（比較文学的研究も含む）、異文化理解・国際理解、国際交流、文化交流史、ポストコロニアリズム、ナショナリズム、アイデンティティ、ミグレーションなどの、人文学のみならず社会科学領域の幅広い学際的視野・発想をも含む研究を対象とする。社会学、経済学、法学の学問的方法や興味が同時に混在する可能性を排除しないことで斯学の発達発展に寄与する。例えば、ナショナリズム研究においては、文化、社会、政治、経済などの多面にわたる研究領域の知見が必要であるが、そうした分野横断的研究の可能性をより広げるとともに、様々な新しい文化研究の成果を吸収することで、本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9050	
土地・住宅・不動産研究	<p>土地・住宅など不動産に関する研究は、これまでの都市における土地利用や住宅問題などの社会問題を背景とした研究内容に加えて、現代の少子高齢化社会においては、中心市街活性化、まちづくり、都市および地域再生、不動産市場、不動産金融、不動産資産評価、不良債権問題や不動産証券化など、その範囲は拡大している。また、土地・住宅など不動産は国民総資産の多くの部分を占め、国民生活の質の向上を考える上で、資産とりわけ土地・住宅資産は適切に評価され、家計や企業、行政機関の経営に有効活用する必要がある。本分野では、経済学、都市計画・社会工学、法学、社会福祉学、社会学、心理学、政治学、建築学、住居学等さまざまな学術研究分野に跨る複合的な性格を持つ土地・住宅・不動産に関する意欲的な研究を期待する。</p>	9051	平成24年度
オミクス計測科学	<p>自然科学の新しい方法論であるオミクス計測科学は、総体（オーム）を構成する単位（例えば分子）に対する網羅的あるいは焦点を絞った計測（同定・解析）を基盤とし、プロテオミクス、メタボロミクス（生体、一細胞、天然物など）とメタボノミクス（薬学）、グライコミクス、リピドミクス、メタロミクス、アダクトミクス、ゲノミクス、トランスクリプトミクス、及び複合ミクス（例えばグライコプロテオミクス）などに関する計測原理・解析原理と規範的応用研究が含まれる。各オミクスには分子固有の性質があり、その性質に応じた計測の課題がある。例えば、糖鎖や脂質はタンパク質・ペプチドとは大きく異なる。計測法の種別として、非破壊計測、可視化・イメージング計測（局所、三次元）、オンサイト計測、分光、質量、イオン、レーザーがあり、さらに、計測データを扱うデータベースなど情報科学研究も包含する。加えて、質量分析については、質量分析学の体系化につながる反応計算法学、物理化学、気相化学、イオン光学、イメージングの計測原理研究と計測内容としての定性、定量、構造、機能（構造機能）解析、分子関連解析に関する原理と規範的応用研究なども含まれる。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9052	～ 平成26年度
宇 宙 生 命 科 学	<p>宇宙生命科学は、宇宙環境を利用して生命の起源を探るアストロバイオロジー、地上とは異なる宇宙環境下で微生物や動植物及びヒトの適応と生存機構を解明する重力生物学並びに放射線生物学、そして宇宙実験の実施や人類が宇宙へ進出するために必要な工学、医学、農学諸分野を含む、広範で独創性に富んだ研究領域である。宇宙環境を利用した宇宙実験により、今日のように多様性に富んだ生命が地球で誕生し、巧みに地球環境に適応、進化してきたしくみの根幹にせまることができると期待されている。また、宇宙開発利用の促進、地球外視点での環境保全、宇宙時代の次世代教育等に対応できる学問分野としては現状で唯一である。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9053	

分 野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
睡眠科学	<p>睡眠に関する研究は、基礎生物学から臨床医学まで、さらに社会学、工学、文化学等幅広い分野にまたがるものである。基礎生物学の中でも、生理学、薬学、分子生物学、心理学、行動科学などが、臨床医学に関しても、精神医学、神経内科学、呼吸器内科学、耳鼻科学、口腔外科学、歯学といった多数の研究領域が関連する学際的な研究分野である。睡眠をはじめとする生物時計の研究が生物学研究の大きな潮流となり、また現代の高度技術化社会にあって生産活動や経済利益を重視するあまり、睡眠障害に起因する大事故も頻発しており、睡眠科学の研究は興味ある学問分野としてだけでなく社会的要請としても世界中で重要性を増している。</p> <p>本分野においては、睡眠、概日リズム、生物時計などの基礎研究から、睡眠異常、睡眠時随伴症、睡眠障害の機序と治療などの臨床医学研究、さらに睡眠をめぐる社会学、工学、文化学等さまざまな方面からの実践的な学問的取り組みを含んだ意欲的な研究の推進を期待する。</p>	9054	平成24年度 ～ 平成26年度
震災問題と人文科学・社会科学	<p>東日本大震災をはじめとする激甚な人的・物的被害をもたらした大震災は、さまざまな危機を日本社会に与えてきた。それらの危機的な状況を乗り越えていくためには、土木・建築等の分野を中心に行われてきた大震災による物的環境・インフラ被害の実態把握と復旧・復興に関する研究だけでなく、社会経済的な被害及びその復旧・復興に関する組織的・体系的な研究が不可欠である。研究アプローチの多様性・領域横断性への対応、研究支援の継続性の維持、対象地域の広域性及び被災地特性の個別性への配慮を担保しつつ、復興支援さらには将来の減災対策に向けた知的基盤の充実を図るためには、震災問題をテーマとする人文学・社会科学のさまざまな領域における研究が必要である。</p> <p>本分野は、既存細目では扱いきれない「新たな視点からの研究」をも促進し、「災害の人文学・社会科学」の体系化に向けた契機となりうる点で、重要性が高い。既存細目内の課題設定を超えて「震災の被害と復興の全体像」を領域横断的に把握するため、人文学・社会科学系諸領域での研究促進と知見共有化の契機となる研究を期待する。</p>	9055	

<p>復 興 農 学</p>	<p>復興農学は、農学分野で農学の多様な問題をカバーしているものの東日本大震災のような大震災を想定していなかったために、復旧・復興という社会的なニーズに迅速かつ総合的に対応できなかったことから、千年の時間スケールの災害にも柔軟に対応でき、持続可能な農山漁村の設計と農林水産業を創出することを目指す分野である。ただし、復興農学は単なる今回の震災からの復興だけを意図するものではなく、将来的には予防原理に基づいて、昨今の気候変動に起因する気象災害や水害を受けた農村・山村・漁村の復興、あるいは国際問題や外圧による我が国の農業への予測できない打撃からの農林水産業復興等も対象として発展することを期待する。</p> <p>本分野では、＜計画系＞として、震災復興のための農村・山村・漁村計画学／災害リスク管理・災害復興に関する農山漁村社会・経済システムの設計等、＜メカニズム解明と影響評価系＞として、大震災による生態系（流域・森林・農耕地・沿岸・海洋）のモニタリングと影響評価／農作物・水産物・家畜等への放射性物質の移行・蓄積・代謝解析／農畜水産物の食品加工過程における放射性物質の動態解析等、＜技術開発系＞として、農山漁村社会インフラの復旧技術開発／農耕地や生活圏の除塩・除染のための技術開発／環境修復・浄化・濃縮技術（微生物・植物を利用したバイオ・ファイトレメディエーション、水系からの放射性物質の濃縮除去）／耐塩性作物の育種／放射性汚染バイオマスの減量化および除染法の開発／災害木質廃棄物のバイオマス燃料への有効利用、緊急時生鮮食料供給システムの構築（野菜工場）等、＜人材育成＞として、復興農学のサイエンスコミュニケーション・アウトリーチ等、を重点化するべき項目として、本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	<p>9056</p>	<p>～ 平成27年度</p>
----------------	---	-------------	---------------------

分野	内 容	細目番号	設定期間 (予定)
公 共 政 策	<p>公共政策の研究は、経済政策、都市政策、防災政策など各種の中央地方の政府による政策を対象とするが、広い意味での政策は、さらに政策、施策、実施、評価などレベルに分けることもできる。日本公共政策学会の過去15年の報告や学会誌や紀要に掲載された研究論文では、法学、政治学、経済学系統の諸分野に帰することができるものが多いが、他方、既存の諸ディシプリンの協力提携が新しい公共政策という研究分野を作り出している部分も観察できる。たとえば、「法と経済」はディシプリンの協力によって生まれた領域として典型的な事例である。経済の政治分析をするという「政治経済学」の主張も、少なくとも一時、世界の政治学の主流であった。経済学を中心に発展した「公共経済学（たとえば、ブキャナン）」は、高いレベルの政治学教育では必須とされている。「公共政策」の文献においては、その形成過程については政治学の分析の対象であり、政策のアイデアに関しては、経済学、福祉学、環境学、都市計画学などの諸研究分野において成果が示され、それらの諸政策が実現するためには政府や自治体の法律、政令、条例など「法」の形式で表現されてはじめて一般性を得る。また、政策の合法性が問題になるときは、裁判所の判例が分析の対象とされる。公共政策の名で、いくつかの分野で既存ディシプリンが他のディシプリンを取り込んで社会科学を拡張させる傾向が見られる。諸社会科学分野の協力提携は、社会科学のそれぞれの分野の研究水準を高めると共に、新しい研究分野を成立させる可能性があると言えよう。キーワードとしては、法と経済、政治経済学、政策評価、都市計画、福祉政策・環境政策などの諸政策、ガバナンス、NGO/NPO、公共経済、公共選択、国債・財政赤字、金融とバブル、戦略論、国際公共政策などが考えられる。本分野の発展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9057	平成25年度 ～ 平成27年度

(注1) この表は、本表と併せて基盤研究(C)「一般」についてのみ適用されるものです。

(注2) 設定期間は公募を行う予定の年度です。設定期間にかかわらず3～5年間の研究課題を対象とします。